

中高生世代ワークショップ Teens ムサカツ 第1回実行委員会 意見要旨

令和4年6月12日に Teens ムサカツ実行委員会第1回実行委員会を開催し、中高生世代30名が参加し、「こどものけんりってなあに？」第1号を見て、5つのグループに分かれて、どんな項目が気になったり大切だと思ったか、またその理由や思ったことなどについて、グループごとに意見交換を行った。

≪意見≫

【前文】

- ・ 子どもたちの安心が大切。そのために人とつながること、他人との関わりが必要。

【子どもにとって大切な子どもの権利】

- ・ 遊ぶことは大切。楽しいことに向き合うことで社会に出ても集中力を養うことができる。
- ・ 大人が考える子どもの権利ではなく、子ども自身が考える権利について知りたい。自分らしくのびのび暮らせる環境を、周りの人たちに作りだしてほしい。
- ・ 「安心して生きる権利」について。安心する環境は自分だけで整えることはできない、周りの人と協力して自分らしくいられる居場所を作り出していくべきでないか。その人の安心する居場所をつくるためには、その人のことを知ることが大切。
- ・ 本人しか分からない要望を聞く必要がある。子どもが悩みや考えを相談できる環境が重要。
- ・ 「休む権利」があるならば、学校の欠席について体調不良やケガによるものと、学校に行きたくないという理由では何かしらの区別をした方が良いのではないか。
- ・ 子どもがづらいとき休むことも大切だが、学校自体が環境を変える対策も重要。
- ・ いじめを気軽に相談できる場が大事。
- ・ 「先生に言われている」感じの授業ではなく、自分から学ぶ教育に形式を変える。
- ・ 公立の学校と私立の学校の間での授業の内容や環境の格差をなくす。
- ・ 基本的な権利だからこそ、当たり前のようにみえる権利が守られているか見直すべき。

【すべての子への支援】

- ・ 個性に合わせた支援が必要。具体的にどのような支援があるのか気になった。
- ・ 支援が依存にならないようにするのも大事。

【おとなになるための支援】

- ・ 子どもころに支援を受けられたかで大きく人生は変わる。教育はもちろん、大人になるための支援は大切。
- ・ 大人になるまでにお金がかかる。低所得世帯への支援を用意したり、わかりやすい制度にする。

【子どもの居場所】

- ・ ひとりひとりの状況を知って改善するのが大切。どのような形で居場所を作るのか気になった。
- ・ 楽しめる、相談できるだけでなく、精神的に休む場所や悪い雰囲気の改善も大切。

- ・ 夜間に子ども以外の人が使った後に、何か危険な物が落ちていたら危ない。
- ・ 家に自分の居場所がない子どももいる。もっと勉強や遊びができる居場所を増やしたほうがいい。
- ・ 空間だけでなく、心の拠り所としての居場所も必要だと思う。

【子どもの権利を知ること】

- ・ 子どもの権利を知らないと子どもの権利侵害に気づかない。知ることが大切。
- ・ 子どもが子どもの権利を知る機会が少ない。子どもにも学校で子どもの権利を学べる機会をつくる。
- ・ 大人も子どもの権利を知ることが大切。市民の目に触れるように周知が必要。
- ・ 大人の実理解が必要だからより多くの人子どもが子どもの権利を知るべき。現状理解や改善案がより多く出て客観的に物事が見られるようになる。
- ・ 大人が知ること子どもへの接し方も変わる。虐待なども減ると思う。
- ・ チラシなどで市民の目に触れる工夫をすべき。
- ・ 問題に対してしっかりと対応しない人もいる。対策の重要性を大人にも周知していく必要がある。
- ・ 「子ども権利の日」を作ることは、知名度を上げるのに最適。家庭と学校が積極的に動くことで、より良い案が出るようになると思った。
- ・ 知るとは自分のもつ権利を知る機会になる。ありのままの自分を相手に伝えることができ、自信を持ち、成長していくうえで大切である。

【子どもの安心・安全】

- ・ 安心して生きることは自分らしく生きるうえで必要。
- ・ 周りからの圧力を受けずに、もっと自分らしく生きたい。理解を広げるために経験者から話を聴くことも大切。
- ・ 遊具などの注意書きをひらがなにする。
- ・ 差別について、(中間報告の中で)はっきり書いたほうがいい。

【子どもが意見を表したり参加したりすること】

- ・ 大人ではなく未来を担う子どもの意見を反映してほしい。子どもが話し合える機会が必要。
- ・ 意見を表したり参加したりできる「子ども」は何歳から？
- ・ 意見の伝え方を小さいころから教育として教わることも必要。
- ・ 子どもが意見を発信するには、ムサカツやアンケート、学校での話し合いを活用すべき。
- ・ 子どもの意見が市政にどう活かされているか明確にわかるとよい。

【いじめを止めること】

- ・ 安心して生活する上で大切。条例の内容をもっと具体的に書いてほしい。
- ・ 相談のときは、「秘密を守ること」が大切。いじめのアンケートを匿名にすべき。
- ・ 気軽に話せる相談先がほしい。
- ・ 精神的な拠り所がいくつかあると安心。先生の実対応がいじめを止める鍵になる。
- ・ 「いじめを止めること」というタイトルが気になる。いじめを止めるというより、そもそもいじめをなくすことを考えてほしい。

- ・ いじめとじゃれ合いの境界について考えるべき。いじめに関する教育をしっかりとほしい。
- ・ 解決するための仕組みを整えることがとても大切。
- ・ いじめが解決することで苦しんでいた当人やその家族が救われる。
- ・ いじめの何がいけないのかきちんと理解できていない人もいると思うため、自分事として考えられる取り組みや、市と学校と家庭が協力する必要がある。
- ・ いじめの予防(起きる前の対策)をする。いじめが起きてから対策を打っても根本的な解決にはならないと考える。
- ・ 「いじめ」は「権利を傷つける行為」。
- ・ いじめた側のメンタルケアも必要。

【子どもの相談】

- ・ 悩みは早めに相談したほうがいいけど不安。
- ・ 市の相談窓口は堅苦しいイメージがある。もっと気軽に相談できる場がほしい。
- ・ 相談されたことは秘密にしてほしい。どこまで秘密を守ってくれるのか、明らかにしてほしい。
- ・ 不登校の問題には、スクールカウンセラーとの協力が必要。
- ・ 身近な相談員を知らない。身近な相談員とは具体的にどのような人なのか。

以上